



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



一層の研究活性化を目指して

歯学部長 宮崎 隆

今年も科学研究費補助金の申請時期になりました。例年、研究活動委員会を通じて申請資格を有する教員は全て申請するようにお願いしています。



さて、平成17年度から歯学研究科が文科省のハイテクリサーチセンターに選定され、「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」を学部の総力をあげて進めてきました。3年を経過したところで、研究進捗状況報告書を文科省に提出し中間評価を受けました。去る10月2日付けで結果の通知を受けましたが、総合所見はAで、以下のようなコメントでした。「研究組織が研究科を挙げての一体感のあるプロジェクト体制を構築している。厳格な内部評価体制に基づく客観的かつ公平感の高い運営をしている。研究施設・設備が良好に活用されている。着実に研究成果をあげている。最終目標に向けた取り組みを期待する。」研究分担の諸先生方に感謝するとともに、残りの2年間で、最終的な成果が出るように各位のご協力をお願い申し上げます。

もう一つのうれしい知らせは、平成20年度から新規の募集があった「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の「研究拠点を形成する研究」として、本学医学部と歯学部からそれぞれのプロジェクトを申請しましたが、両方とも採択されました。歯学部からは、「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究—発症メカニズムの解明からQOLの向上を目指した包括的リハビリテーションまで—」(研究代表者: 口腔病理学講座・立川哲彦教授)が採択になりました。本テーマも医系総合大学の一員である本歯学部が学部の総力をあげて取り組むべき課題です。このように文科省の大きな研究プロジェクトを二つ抱えたことは、本歯学部にとって大きな自信です。是非とも本学から国内外に研究成果を発信し、歯科医療の向上に貢献していきましょう。

なお、現在、科研費を含む公的研究費の管理・監査体制のガイドラインに基づく体制整備が研究機関に求められ、本学においても各種規程やガイドブックを整備しています。一方で、研究者のモラルが厳しく

問われているのは周知の通りです。10月の学部長会で、「研究活動における不正防止ガイドライン」を制定し、ホームページで公開していますが、各研究者におかれましては、このガイドラインを遵守するようにお願い申し上げます。

父兄会秋季部会が開催されました

教育委員長 佐藤 裕二

11月29日(土曜日)午後1時から恒例の父兄会秋季部会が旗の台校舎で開催されました。歯学部はここ数年参加者が増えていますが、今年は224名もの参加者があり、歯学部会会場はほぼいっぱいになりました。最初に宮崎学部長が歯学部の現状とこれからについてお話しし、引き続き私が今年度後半の学業予定(特に進級判定、共用試験、卒業判定)について説明し、立川学生部長が全歯体を始めとする学生の課外活動の報告と健康管理や生活態度に関する諸注意を行いました。今年度から学年主任と副主任が任命され、指導担任を学年ごとにまとめることになり、紹介されました。

学年	学年主任	副主任	副主任
2	中村教授	玉置准教授	高見講師
3	井上 _富 教授	宮本准教授	入江講師
4	五十嵐教授	井上 _美 教授	弘中准教授
5	山本教授	長谷川准教授	倉林准教授
6	佐藤教授	上條教授	高橋教授

部会終了後、各部屋にわかれて指導担任との個人面談を行いました。指導担任も昨年度から40名強の教員が少人数の学生について細かく対応するようになりました。そのため多くの教室に分散し、多少混乱もありご迷惑をおかけしましたが、ご父兄も熱心に個人面談をされていました。



夕方に50周年記念館で開催された懇親会にも大勢のご父兄が参加され、教員を含めて懇親を深めました。土曜日の午後にもかかわらず、遠方からもおいでいただいたご父兄各位、熱心に学生指導にあたっている指導担任各位、裏方で支えた教務や学生部の職員各位にお礼申し上げます。学生、ご父兄、大学、教員、職員の今後の良い連携が期待できます。来年度は1か月早い10月17日が予定されています。

進学相談会が開催されました

入試常任委員 山田 庄司

本年度の第4回目となる歯学部進学相談会が平成20年11月30日(日)、旗の台キャンパスで行われました。例年行われている3回のオープンキャンパスに加えて、駿台予備校の講師の先生方に、過去の歯学部入試問題を分析して頂き「歯学部入試問題の傾向と対策」の講義が行われました。

当日は36組の受験生希望者とその父兄が参加し、13時から600号教室にて、宮崎歯学部長の挨拶に続き、予備校の英語と数学の講師の先生による入試問題解説授業が行われ、ノートを取りながら真剣に受講していました。10分の休憩を挟んだ在學生とのフリートークでは、寮生活やクラブ活動などについての質問があり、談笑を交えながら話し合いました。

また恒例となっている、推薦・編入学試験合格者に対する入学前学習に関する相談と個別指導が500号教室とPBL



ルームで行われ、出席予定者全員が出席しました。これは、入学後の授業に無理なく適応できるように入学までの期間を利用して準備をしてもらうこと、および寮生活における集団生活に対する不安を解消し、充実した寮生活を送ってもらうことを目的として行われています。一方、編入学者は、1年間の寮生活で強固な友人関係が形成されている中に少人数で入学してくるため、人間関係の構築が困難であったり、入学後に予想以上のカリキュラムの過密さに戸惑う場合が見うけられるために、事前の説明を行っています。

平成20年度永年勤続者表彰式

歯学部長 宮崎 隆

去る11月11日(火)に上條講堂において、学校法人昭和大学の平成20年度永年勤続者表彰式が執り行われました。グリークラブの校歌斉唱に引き続き、小口理事長から、長年大学の発展を支えてくれた永年勤続者のご努力に対して感謝の挨拶がありました。引き続き理事長から35年、25年、15年の代表者に、表彰状と記念品が授与され



ました。記念撮影のあと、タワーレストラン昭和に会場を移し、懇親会が開催されました。田口人事担当理事が開会の挨拶で、35年前を始め、節目の時代の世相や本学の状況を紹介され、参加者一同懐かしい思い出に浸ると同時に、年月の経つのが早いと実感した次第です。歯学部関係の25年ならびに15年の表彰者は以下の通りです(敬称略)。

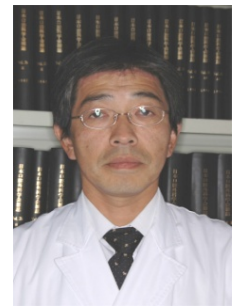
25年:五十嵐武(口腔微生物学)、古屋良一(歯科補綴学)、鈴木敏光(齶蝕・歯内治療学)、猪俣昌美、岸水博子(歯科病院管理課)、松橋谷千代、池田秀一(歯科病院中央技工室)

15年:木ノ内ひろ子(大学病院歯科)、村田久子(歯科病院医事課)、石橋真由美、境三枝子、斉藤ゆかり(歯科病院看護部)、遠藤敦(歯科病院中央放射線室)、木村有子、草間里織(歯科病院衛生士室)、木下芳樹(歯科病院中央技工室)

上條奨学賞(研究補助)を受賞して

顎口腔疾患制御外科学教室 岩瀬 正泰

最近、癌の増殖・浸潤および転移の機序に基づき、分子レベルで特異的に癌細胞に作用する分子標的療法が開発され、興味ある成績が報告されています。私は、口腔癌の新たな治療戦略として分子標的治療法の研究を精力的に行い、種々の分子の阻害とアポ



トーシスを誘導するデスレセプターとの併用により扁平上皮癌細胞への殺作用が亢進することを示しました。これら種々の分子標的阻害薬は扁平上皮癌細胞のc-FLIP発現を抑制し、更にはBcl-2ファミリーやIAPファミリーの発現制御していることも明らかにしました。即ち、この活性化の機序にはextrinsic経路のみならずintrinsic経路も関与することが分かりました。また、c-FLIPのsiRNA導入によるデスレセプター誘導アポトーシスは新たな扁平上皮癌の分子標的治療の可能性を示唆しています。これら一連の研究成果は新たな癌細胞のアポトーシス活性化経路の戦略として臨床医学に寄与するものと考えております。

なお、一連の研究によって平成17年度上條奨学賞、19年度日本口腔科学会宿題報告、科学研究費(基盤B)採択ならびに今回20年度上條奨学賞(「デスレセプター誘導アポトーシス感受性の増強による扁平上皮癌に対する分子標的治療の開発に関する研究」)に浴すことができたのは、多くの共同研究者の尽力によるものであり、此処に深謝申し上げる次第であります。

戦略的大学連携支援事業に採択されました

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

平成20年度に文科省から新しい事業として、「戦略的大学連携支援事業」の公募があり、「4大学交流」をおこなっている福岡歯科大学が幹事校になり、本学、北海道医療大学、岩手医科大学に福岡大学、九州歯科大学、神奈川歯科大学、鶴見大学が加わり、8大学で「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」というプログラムで応募したところ、厳しい選考を経て採択されました。



現在、1:歯学部における一般医学教育の意義・役割の調査、2:医学部における口腔医学教育の意義・役割の調査、3:教職員の人事交流の活発化、FD/SD事業の共同実施、4:歯科医学教育と口腔医学教育における基



礎専門教育・社会医学系教育の役割の分析を行っております。宮崎学部長が連携大学学長・学部長会議に出席し、連携支援事業の推進方策などを協議し、立川学生部長が口腔医学自己点検・評価委員会に出席し、学生および教職員に対するアンケートなどの実施による自己点検を検討し、向井教授が戦略連携事業実施担当者会議において、FD事業、海外視察計画の立案を行い、片岡室長が口腔医学カリキュラム作成担当者会議に出席し、口腔医学教育カリキュラムの検討・作成を行っております。今回は平成22年度までの3年間の事業として採択されました。8大学に導入するTV会議システムを活用して、事業を推進していく予定です。

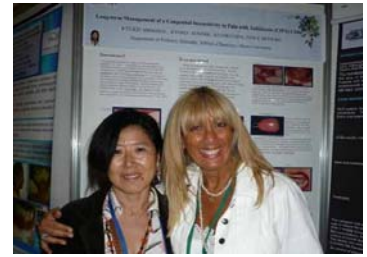
平成21年1月10日に昭和大学で開催される「口腔ケアセンター設立記念シンポジウム」後に来年度最初の会議が予定されています。事業の進展は随時ご報告させていただきます。

第19回国際障害者歯科学会議(ブラジル)に参加して

小児成育歯科学教室 島田 幸恵

第19回国際障害者歯科学会議(IADH)が、平成20年10月28日から31日の間、ブラジルのサントスで開かれました。サントスは、サンパウロ市の南東約70kmにあるブラジル第一の貿易港で、1908年、日本から初めての移民船「笠戸丸」がサントス港に到着したという日本とも関係の深い町であり、また、今年

り、ブラジルは片道2日かかりと遠いこと、時差が13時間と日本とは、昼夜逆転してしまうので、体力のあるうちに訪れるとよいと実感しました。



Mugayar 先生と

口腔衛生学教室から、弘中先生、内海先生、大岡先生、拝野先生、横山先生と小児成育歯科学教室から島田の6演題の発表がありました。また、昭和大学と姉妹校のブラジルのブロンコ大学から小児歯科に留学していた Leda Mugayar 先生の特別講演もあり、旧交を深めることができました。Leda 先生は、現在 Australia の Westmead Center for Oral Health NSW の Special Care Unit の教授をされており、2012年には Australia で IADH があるので、再会できるよう約束しました。

第16回アレキサンドリア国際歯科学会に参加して

大学院4年生(歯科矯正学専攻)
永良 百合子

10月28日よりエジプトのアレキサンドリアで開催された「第16回アレキサンドリア国際歯科学会」に参加して参りました。神殿のごとく荘厳な学会会場の中、国際色豊かな参加者に圧倒されつつ、「CAD/CAMを用いた熱可塑性樹脂製矯正装置の矯正力発現に関する生体力学的検討」について発表を致しました。矯正治療器具の中でも新しい装置に関する内容でしたが、各国の先生方から多くの熱心な御質問を頂き、世界的に矯正治療が進歩している事を感じました。

今回参加させて頂いたのは、以前当教室に留学されていた El Kenary 先生がアレキサンドリア大学矯正学教室の教授になられ、主催された本学会で発表の機会を



下さったという経緯があります。留学当時のお話を伺い、また帰国して何年も経った後にもこの様な貴重な交流が広がり続けることに感動致しました。当教室には留学生が毎年いらっしゃいますが今後も今回の体験のように末永い国際交流が続くようにと願います。

昇任

広報委員長 井上 富雄

・片岡 有(口腔生化学教室)

12月1日付で助教に採用されました。

昭和歯学会で研究発表を行って

大学院4年生(顎口腔疾患制御外科学専攻)
玄番 晶子

12月6日, 昭和大学歯科病院第1臨床講堂および第1会議室において第28回昭和歯学会例会が開催されました。今例会のポスター発表は, 本年度卒業予定の大学院生による研究成果を発表する場とされ, 私も同期に囲まれながら4年間の研究結果を発表いたしました。学部学生時代からの同級生とはいえ, 大学院進学後は各々分野が大きく異なる教室に在籍したため, お互いの研究内容や用いられている最新の研究技術, その研究領域における将来の展望などを知る機会はなかなかありませんでした。今例会は同期の4年間の研究成果を知る良い機会であったとともに, 昭和大学歯学部基礎および臨床研究の現在が一堂に会した貴重な場であったと感じています。専門分野ごとに開催される各学会にはないおもしろさがありますので, 来年度から開催される予定の大学院生による研究成果発表会にも, ぜひ多くの先生方や学生の皆さんに参加していただければと思います。



第21回日本歯科医学会総会に参加して

歯学部5年生 鴨下 亮平

この度, 日本歯科医学会総会という大きな場所で研究発表をいたしました。大学3年生の年度末の「D3研究入門」に始まり, 4年生, 5年生と続けてきたものに1つの区切りとなりました。研究は多々, 苦労はありましたが, この研究期間と発表は学生生活の中でとても貴重で良い経験になり, 良い刺激であったと思います。今回の発表では, 質疑応答の時間にたくさんの質問を受けました。そのひとつひとつが自分で考えた切り口とは違うものであり, それらからも多くのことを学ぶことができました。ある先生から「基礎はこれからの歯科を変えていくことができる。」とのお言葉を頂きました。5年生で臨床実習を行い, 臨床に対する夢を持ちますが, 基礎があってこそ臨床ということを考えさせられました。この発表で, 自分の進みたいという道の選択肢が広がったと思います。これらの機会を与えてくださった口腔解剖学教室の中村雅典教授をはじめ, 研究中多々お世話になりました先生方に心より感謝申し上げます。



厚生労働省に異動して

厚生労働省 三森 香織

昭和大学歯周病学教室から, 厚生労働省に異動して, 早4ヶ月がたちます。現在, 関東信越厚生局健康福祉部医事課で, 臨床研修審査官をしております。

歯科の臨床研修審査官は, 全地方厚生局併任となっており, 他局担当者と連携しながら, 全国の研修プログラムを審査しております。また, 臨床研修施設の実地調査を行い, 制度に対する現場の声を聞く機会があります。その他, 指導歯科医講習会の講演依頼にも対応しております。このように, 臨床研修審査官には, 臨床研修の現場と制度の橋渡しという側面があります。

行政に関わるようになって, 以前までの歯科医師としての立場に, 国民という視点も加わり, 視野を広げつつあります。3年後大学に戻った暁には, ここで学んだ経験を還元したいと思っております。

さいたま新都心にいらっしゃった際には, ぜひ関東信越厚生局にお立ち寄りください。また, 現在厚労省に, 昭和大学歯学部出身の方が他にいないため, 仲間が増えることを願っております。今後とも宜しくお願い致します。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

平成21年(2009年)

- 1月17日, 18日(土, 日): 大学入試センター試験
- 1月30日(金): 歯学部入学試験(選抜1期・センター)
- 2月4日(水): 歯学部4年生 CBT 試験
- 2月7日, 8日(土, 日): 第102回歯科医師国家試験
- 2月21日(土): 大学院歯学研究科入学試験
- 2月22日(日): 歯学部4年生 OSCE 試験

診療統計(平成20年11月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,199	736.3	715.2	752.8
入院患者	300	10.0	12.2	13.0

編集後記

口腔生化学教室 山田 篤

今年も残すところ数日となりました。今回の記事にもありますが, 学部および大学院の学生の皆さんは国内外の学会で積極的に発表されており, とても頼もしく感じられます。このような記事に出会うたびに, 学生時代, 初めて発表した時のほろ苦い思い出が蘇ってきます。末筆となりましたが, お忙しい中, 原稿を執筆してくださいました諸先生方に厚くお礼申し上げます。